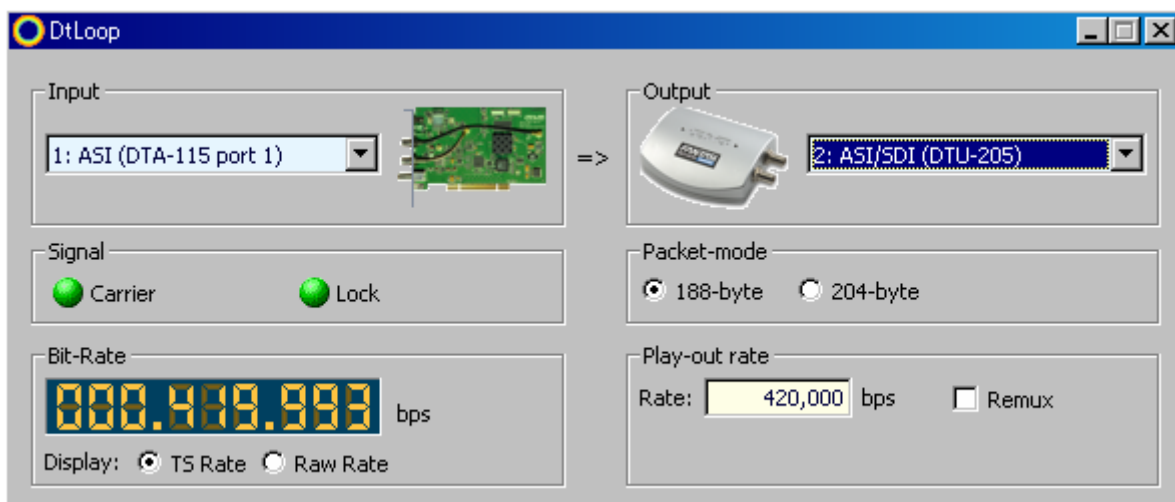
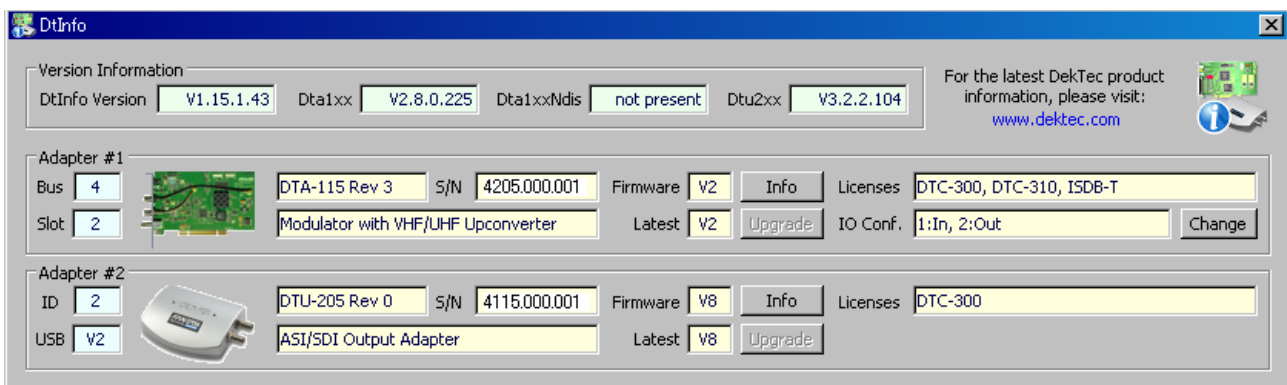


DtInfo / DtLoop

ユーティリティソフトウェア 利用ガイド



目次

1. はじめに	3
2. DtInfo / DtLoop のインストール	4
2.1.1. インストール	4
3. DtInfo の操作	5
3.1. DtInfo の起動	5
3.2. DtInfo 画面	5
4. DtLoop の操作	6
4.1. DtLoop の起動	6
4.2. DtInfo 画面	6
4.3. DtLoop の利用例	7

1. はじめに

Dektec社のインターフェイスアダプタ製品をより便利にご利用いただくために、オプションとして管理されるアプリケーションソフトウェアの他に、全てのユーザが利用可能なユーティリティソフトウェアが用意されています。

DtInfo は製品のバージョン情報・ライセンス情報・インターフェイス切替機能を提供します。問題発生時の状況確認、製品のバージョンアップなどに利用されます。

DtLoop はDektec社製品のインターフェイス間で信号をリアルタイムに転送するソフトウェアです。異なる形式のインターフェイス間での信号の転送も可能なためインターフェイスコンバータとしての利用も可能となります。

これらのユーティリティソフトは全ての **Dektec**社製品に対して利用が可能です。

2. DtInfo / DtLoop のインストール

2.1.1. インストール

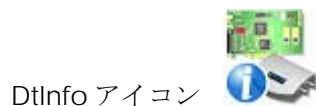
DtInfo / DtLoop のインストールは、それぞれ "DtInfo Setup.exe" 、 "DtLoop Setup.exe" から可能で、ウィザード形式でインストールすることが出来ます。

最新バージョンは弊社ウェブサイト (<http://www.village-island.com>) のソフトウェアダウンロードページから入手できます。

3. DtInfo の操作

3.1. DtInfo の起動

スタートメニューの DtInfo を起動します。 : "スタート" → "全てのプログラム" → "DekTec" → "DtInfo、またはデスクトップにDtInfo のショートカットアイコンがある場合はそれをクリックします。



3.2. DtInfo 画面



DtInfo 概観

1. **DtInfo バージョン** : DtInfo のバージョンを表示します。アダプターの Firmware のアップデートを行う際には、最新の DtInfo のバージョンが推奨されます。
2. **アダプタのドライバ情報エリア** : このエリアにはインターフェイスアダプタで利用しているドライバの情報を表示します。
3. **アダプタのID情報** : アダプタが接続された位置情報と ID を表示します。
4. **アダプタ名・シリアル番号表示** : アダプタ名、シリアル番号を表示します。
5. **バージョン情報表示** : 現用の最新ファームウェアバージョンとアダプタのファームウェアバージョンを表示し、必要に応じてアップデートが可能となります。
※最新のファームウェアバージョンを表示させるためには最新の DtInfo を利用します。
6. **ライセンス情報** : アダプタに付与されているライセンス情報を表示します。
7. **インターフェイス切替** : 入出力切替に対応したアダプタのフェイスの状況を表示し、“Change” ボタンより切替が可能となります。

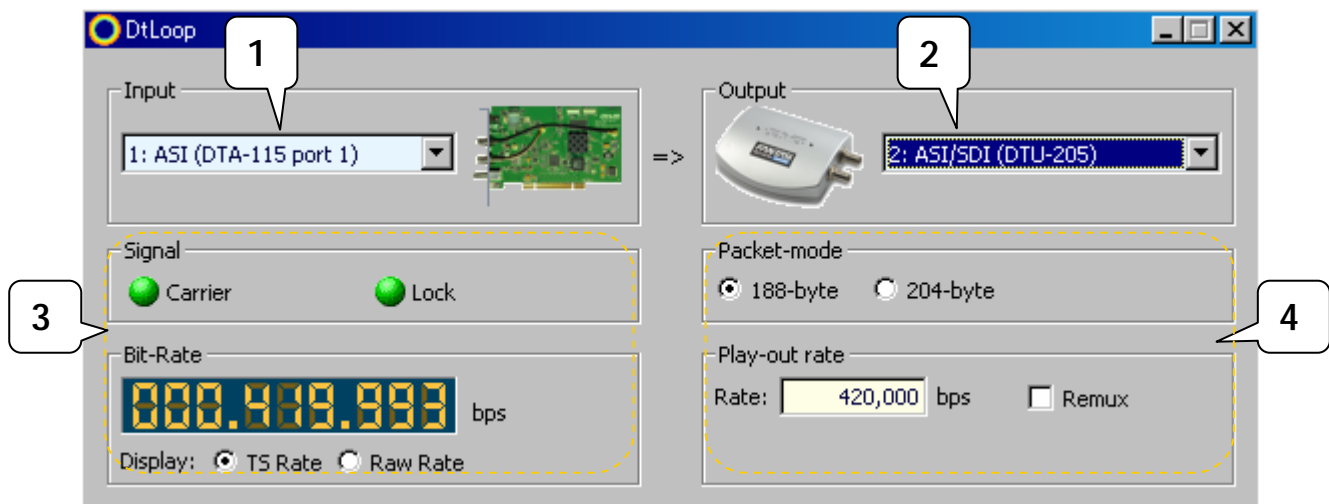
4. DtLoop の操作

4.1. DtLoop の起動

スタートメニューの DtLoop を起動します。 : "スタート" → "全てのプログラム" → "DekTec" → "DtLoop、またはデスクトップにDtInfo のショートカットアイコンがある場合はそれをクリックします。



4.2. DtLoop 画面



DtLoop 概観

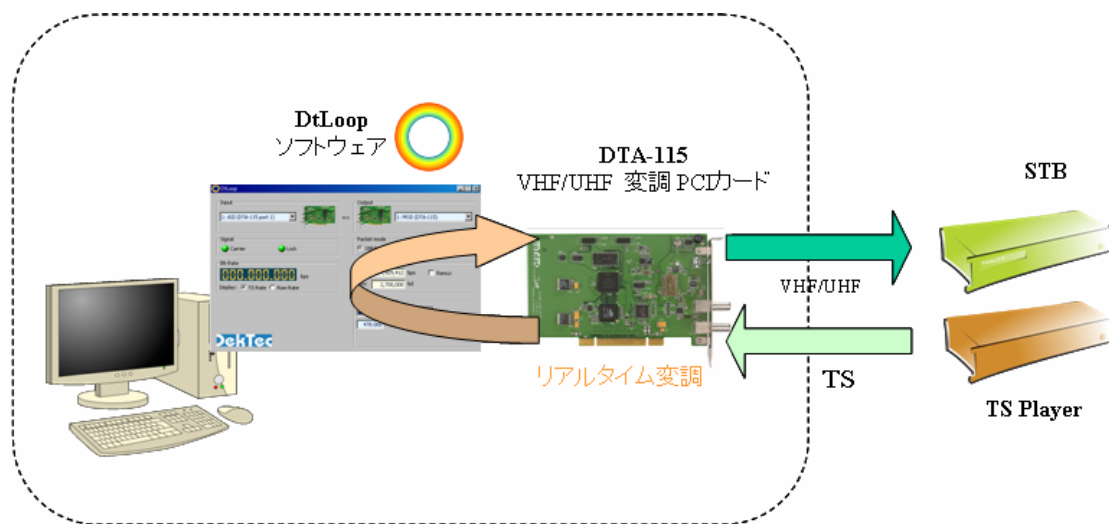
1. 入力アダプタポートの選択 : 入力として割り当てられたポートをプルダウンメニューより選択します。
2. 出力アダプタポートの選択 : 出力として割り当てられたポートをプルダウンメニューより選択します。
3. 入力信号のステータス確認 : 入力信号の状態(キャリアの有無・TS同期・ビットレート)を表示します。
4. 出力信号のパラメータ設定 : 出力のパケットサイズ、ビットレート、および選択されたアダプタの種類により追加のパラメータを設定します。

4.3. DtLoop の利用例

DtLoop を利用した例を以下に示します。

DTA-115 の ASI 入力ポートと RF 出力ポートに対して DtLoop を利用した場合、ASI ポートへリアルタイムで入力される TS 信号をリアルタイムにて変調出力が可能です。

※ ISDB-T 変調出力には対応していません。



QAM-C 変調時の DtLoop の設定例

